

公益財団法人横須賀芸術文化財団
平成 23 年度第 2 回評議員会
議 事 録

- 1 開催日時 平成 23 年 8 月 22 日（月）午前 10 時 30 分から午前 11 時 20 分まで
- 2 開催場所 横須賀芸術劇場 大劇場 楽屋 8
- 3 出席者 評議員総数 6 名
出席評議員 6 名
上田滋、岡朋子、片山薫、菊池匡文、下里矩生、
松谷和典
出席理事 1 名
清水健一（業務執行理事・常務理事）

4 議長 上田滋

5 決議及び承認事項

議案第 3 号 平成 23 年度（4－5 月期）事業報告及び決算について

6 報告事項

ア 平成 23 年度第 2 回理事会における決議事項について

イ 平成 23 年 4 月 1 日以降の職務の執行状況について

7 議事の経過概要及びその結果

定刻に評議員全員の着席を確認し、清水常務理事が開会を宣言。

定款第 18 条の規定に基づき、出席した評議員の互選により上田評議員が議長に選出され、併せて、定款第 22 条第 2 項の規定に基づく議事録署名人となった。

上田議長が定款第 19 条第 1 項に規定する定足数を満たしていることを確認し、本評議員会が有効に成立した旨を宣言し、議案の審議に入った。

(1) 議案第 3 号 平成 23 年度（4－5 月期）事業報告及び決算について

上田議長が議案を上程し、清水常務理事が詳細を説明。

事業報告については、財源の区分である一般会計と舞台・音楽芸術普及基金特別会計に分け、それぞれの事業概要を説明。

決算については、収支計算書をはじめとする計算書類等について説明。

説明によると、平成 23 年 6 月 1 日付け公益財団法人へ移行したため、5 月 31 日をもって特例財団法人としての事業年度を終了した。

平成 23 年度 4－5 月期は、僅か 2 ヶ月であったため、平成 23 年度事業計画の一部を実施するとともに 6 月以降に予定する事業の準備期間となったが、自主公演事業及び貸館事業においては、アンケートを通じ高い評価を得るとともに、収支面においても当初予測に比べ良好に終わるなど成果を残した。

また、育成事業として「第 14 回世界オペラ歌唱コンクール『新しい声 2011』オーディション in YOKOSUKA」を開催し、ドイツ本選に向けたオーディションの場としてその役目を果たした。

当初予算額と比べ、チケット販売収入、貸館及び駐車場の利用料収入が好調であったため、黒字決算となり特定資産からの取崩しを行うこともなかったが、平成23年度6－3月期は赤字が見込まれていることから、楽観視せず、増収及び経費節減に向け、より一層の努力が必要であるとの内容であった。

続いて、清水常務理事から、越田、山寄両監事が平成23年度（4－5月期）事業報告書及び決算書に基づき監査を行った結果、業務は適正に執行されており、決算書の計数は元帳その他関係帳簿等と符合し正確と認められるとの監査報告があった旨報告した。

本議案に関連し、次の質疑応答があった。

- ・上田議長：流動資産の現金預金のうち、約2億円が普通預金となっている。普通預金としておくことの妥当性と、ペイオフに関連し安全性が確保されているのかを確認したい。
- ・清水常務理事：当財団の普通預金は無利息の決済用預金としており、全額が保護されるものである。額面が大きいのは、5月末に指定管理料7,000万円が横須賀市から入金されたためであり、また、普通預金とすることにより日々の支払い等々に対応している。
- ・上田議長：日々必要とされる金額を除いては、定期預金を活用するなど、多少なりとも増収を図れるよう工夫を図りたい。また、現在、定期預金で運用している特定資産についても、その処理の妥当性を再検討されたい。
- ・菊池評議員：東日本大震災の影響はあったか。また、昨年同時期と比べ、どのような状況にあるか。
- ・天沼事業部長：自主公演事業においては、市民に定着している公演や人気のあるアーティストの公演については、震災の影響は表れていない。貸館事業においては、一定の集客が確約できるプロモーター等が主催する公演を除いては利用が減少しており、影響が表れていると捉えている。
- ・菊池評議員：黒字決算ということは、震災の影響もなく好調だったということではないか。
- ・天沼事業部長：チケット収入が当初予測を上回ったことは今期の黒字の一因だが、今期は人気公演が多く、ある程度当初から予測されていた部分ではある。今期は僅か2ヵ月という期間であったために黒字となったが、今後予定している高額なチケット料金の公演については、広報をはじめとする対応策はとっているが、販売面で伸び悩んでおり、むしろ従来以上に苦戦をしている。平成24年度の事業計画を検討するに当たっては、鑑賞機会を市民に提供することや育成事業など財団が重要と位置づけている事業については継続していく一方、極力リスクを避ける運営をしていかなければならないと考えている。
- ・上田議長：今後予定している自主公演事業のチケット販売状況は順調か。
- ・天沼事業部長：人気がありチケット販売が順調な公演もあるが、それらの中に

は公演料が高額なものもあり、必ずしも黒字にはならない。チケット料金を低額に設定して多くの市民に鑑賞機会を提供することも財団の重要な役割だと認識しており、赤字の公演と黒字の公演をバランスよく計画し、総合的に収支の適正化を図っていきたい。

以上、上田議長が諮った結果、出席評議員全員異議なくこれを可決した。

(2) 報告事項

ア 平成 23 年度第 2 回理事会における決議事項について

清水常務理事が報告。

決議事項は、本評議員会において審議した議案のみであった旨報告された。

イ 平成 23 年 4 月 1 日以降の職務の執行状況について

清水常務理事が報告。

主に、横須賀市に対し、横須賀芸術劇場指定管理業務に係る月次及び年次報告を行い、特段の指摘事項もなく評価を受けたこと、市内外の企業に対し事業協賛の依頼を行ったこと、更には、平成 23 年 9 月に予定されている横須賀市決算議会や包括外部監査に向けた準備作業を行っていることなどが報告された。

以上をもって、議事全部の審議及び報告が終了したので、午前 11 時 20 分、議長が閉会を宣し、解散した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長が記名押印する。

平成 23 年 8 月 26 日

公益財団法人横須賀芸術文化財団

議 長
評 議 員

上 田 滋

印

本議事録の作成にかかわる職務を行った者の氏名

公益財団法人横須賀芸術文化財団

常務理事（事務局長） 清水健一

管理部管理課 佐久間陽一